

第7回さよなら原発福井県集会 2018 in ふくい 様

連帯のメッセージ

さよなら原発福井県集会が毎年開催されていることに敬意を表します。

福井県は全国1の原発密集地帯であり、福島第1原発事故のような重大事故が発生すれば、県民の皆さんはもとより、北陸地方、近畿地方など広範囲に甚大な被害をもたらすこととなります。

原子力規制委員会の定めた新規制基準は、既存原発を改修することで再稼働できるようにするための妥協の産物です。軽水炉の持つ本質的危険性を回避することはできません。まして、加圧水型原発では、格納容器が内部の圧力で破壊されることを防止するためのベント設備に設置すべき放射能除去フィルタは、工事申請後5年以内に設置するように求められているだけで、設置していない状態でも再稼働が容認されます。テロなどを想定して設置を義務づけた緊急時制御室（特定重大事故等対処施設）も同じく工事申請後5年以内に設置するように求められているだけで、設置していない状態でも再稼働が容認されます。このようないい加減な基準です。ヨーロッパの新設原発では標準装備となっている2重格納容器（航空機落下の衝撃を受け止める）やコアキャッチャー（熔融した炉心燃料を受け止める耐火・耐熱性の受け皿）については、全く求めていません。シビアアクシデントの可能性がある以上、原発の再稼働は認められません。

皆様の運動は、福井県民の命と暮らしを守るたたかいであることはもちろんですが、広範囲な住民の命と暮らしを守るたたかいです。大きな世論を巻き起こし、原発再稼働を止めさせましょう。

この集会が大きく成功することを祈念し、連帯のメッセージを送ります。

2018年3月11日

日本科学者会議 原子力問題研究委員会

委員長 岩井 孝